

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリウカクイガクホウジン フクオケンリツカクイガク 公立大学法人福岡県立大学								
フリガナ大学の名称	コリウカクイガクホウジン フクオケンリツカクイガクイグイン 公立大学法人福岡県立大学大学院 (Graduate school of Fukuoka Prefectural University)								
大学本部の位置	福岡県田川市伊田4395番地								
大学の目的	福岡県立大学大学院は、広い視野に立って専攻分野に関する専門的学術を教育・研究し、学術文化の進展に寄与するとともに、社会でその高度な専門的知識を活用し得る指導の人材を養成することを目的とする。								
新設研究科等の目的	福岡県立大学大学院は、地域政策、福祉政策、対人援助の在り方について、高度な専門的知識と技能を有する職業人を養成し、高度福祉社会の実現に向けて貢献できる人材を育成することを目的とする。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	人間社会学研究科人間社会学専攻	2年	15人	—年次人	30人	修士(社会福祉) 修士(心理臨床) 修士(子ども教育)	社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係	令和7年4月第1年次	福岡県田川市伊田4395番地
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	なし								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
	人間社会学研究科人間社会学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		45科目	47科目	8科目	81科目	合計81科目中、19科目は講義と演習を兼ねる			
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員(助手を除く)	教授が1名増なのは、既設3専攻には属せず、3専攻共通の英語科目を担当している教授がいるため。 専任教員以外の教員は全て非常勤講師。
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	人間社会学研究科人間社会学専攻	13人(13人)	10人(10人)	3人(3人)	1人(1人)	27人(27人)	0人(0)	10人(10人)	
	計	13人(13人)	10人(10人)	3人(3人)	1人(1人)	27人(27人)	0人(0)	10人(10人)	
既設分	人間社会学研究科社会福祉専攻	4人(4人)	4人(4人)	0	0	8人(8人)	0	4人(4人)	
	人間社会学研究科心理臨床専攻	4人(4人)	3人(3人)	1人(1人)	1人(1人)	9人(9人)	0	5人(5人)	
	人間社会学研究科子ども教育専攻	4人(4人)	3人(3人)	2人(2人)	0	9人(9人)	0	1人(1人)	
	計	12人(12人)	10人(10人)	3人(3人)	1人(1人)	26人(26人)	0	10人(10人)	
合計		25人(25人)	20人(20人)	6人(6人)	2人(2人)	53人(53人)	0	20人(20人)	
職種		専属			その他			計	
事務職員		23人(23人)			0			23人(23人)	
技術職員		0			0			0	
図書館職員		6人(6人)			3人(3人)			9人(9人)	
その他の職員		0			0			0	
指導補助者		0			0			0	
計		29人(29人)			3人(3人)			32人(32人)	
								図書館専属職員の内訳は事務職員1名、司書5名	

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	37,590㎡	— ㎡	— ㎡	37,590㎡				
	そ の 他	56,488㎡	— ㎡	— ㎡	56,488㎡				
	合 計	94,078㎡	— ㎡	— ㎡	94,078㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	37,074㎡ (37,074㎡)	— ㎡ (㎡)	— ㎡ (㎡)	37,074㎡ (37,074㎡)					
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室	助教以上の教員 にはそれぞれ研究 室あり				
	27室	13室	21室	27室					
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 標本 点 点			
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	人間社会学研究科	171,519 [22,821]	[]	109,567 [21,466]	17 [14]	34			
	人間社会学専攻	(171,519 [22,821])	([])	(109,567 [21,466])	(17 [14])	(34)			
計	171,519 [22,821] (171,519 [22,821])	[] ([])	109,567 [21,466] (109,567 [21,466])	17 [14] (17 [14])	34 (34)				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		教員1人当り研究費等		262千円	262千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	9,316千円	9,316千円	9,316千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	7263千円	7263千円	7263千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
	(県内) 818千円 (県外) 1,056千円	536千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		福岡県からの交付金による							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	福岡県立大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	人間社会学部	4	50	3年次若干	200	学士(社会学)	1.13	平成4	福岡県田川市伊田 4395番地
	公共社会学科	4	50	3年次若干	200	学士(社会福祉学)	1.09	平成4	
	社会福祉学科	4	50	3年次若干	200	学士(教育学)	1.15	平成4	
	人間社会学研究科	2	6	—	12	修士(社会福祉)	1.67	平成9	
	社会福祉専攻	2	6	—	12	修士(心理臨床)	1.17	平成19	
	心理臨床専攻	2	3	—	6	修士(子ども教育)	0.83	平成29	
	子ども教育専攻								
看護学部	4	90	—	360	学士(看護学)	1.08	平成15		
看護学科									
看護学研究科	2	12	—	24	修士(看護学)	0.71	平成19		
看護学専攻									
附属施設の概要	名称 : 附属研究所 目的 : 保健・福祉、生涯発達、社会に関する実践的な研究・教育及び地域支援活動の推進 所在地 : 福岡県田川市伊田4395番地 設置年月 : 平成18年4月 規模等 : 土地764㎡ 建物1,324㎡								

公立大学法人福岡県立大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
公立大学法人福岡県立大学				公立大学法人福岡県立大学				
人間社会学部				人間社会学部				
公共社会学科	50	-	200	公共社会学科	50	-	200	
社会福祉学科	50	-	200	社会福祉学科	50	-	200	
人間形成学科	50	-	200	人間形成学科	50	-	200	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
計	240	-	960	計	240	-	960	
公立大学法人福岡県立大学 大学院				公立大学法人福岡県立大学 大学院				
人間社会学研究科				人間社会学研究科				
社会福祉専攻(M)	6	-	12	人間社会学専攻(M)	15	-	30	専攻の設置(届出)
心理臨床専攻(M)	6	-	12					
子ども教育専攻(M)	3	-	6					
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	12	-	24	看護学専攻(M)	12	-	24	
計	27	-	54	計	27	-	54	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況							
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員		
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授	
人間社会学研究科 社会福祉専攻	修士 (社会福祉)	社会学・社会福祉学関係	人間社会学研究科人間社会学専攻	8	4	人間社会学研究科 人間社会学専攻	修士 (社会福祉) 修士 (心理臨床) 修士 (子ども教育)	社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係	人間社会学研究科社会福祉専攻	8	4	
									人間社会学研究科心理臨床専攻	9	4	
									人間社会学研究科子ども教育専攻	9	4	
									人間社会学研究科	1	1	
			計	8	4				計	27	13	
人間社会学研究科 心理臨床専攻	修士 (心理臨床)	教育学・保育学関係	人間社会学研究科人間社会学専攻	9	4							
			計	9	4	計						
人間社会学研究科 子ども教育専攻	修士 (子ども教育)	教育学・保育学関係	人間社会学研究科人間社会学専攻	9	4							
			計	9	4	計						
			計									

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成9年4月	人間社会学研究科 福祉社会専攻 設置	社会学・社会福祉学	設置認可(研究科)
	人間社会学研究科 生涯発達専攻 設置	教育学・保育学	
平成19年4月	人間社会学研究科 福祉社会専攻の学生募集停止	—	学生募集停止(専攻)
	人間社会学研究科 生涯発達専攻の学生募集停止	—	
	人間社会学研究科 社会福祉専攻 設置	社会学・社会福祉学	設置届出(専攻)
	人間社会学研究科 心理臨床専攻 設置	教育学・保育学	
	人間社会学研究科 地域教育支援専攻 設置	教育学・保育学	
平成22年4月	人間社会学研究科 社会福祉専攻のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学	学則変更(専攻)
	人間社会学研究科 心理臨床専攻のカリキュラム変更	教育学・保育学	
平成26年4月	人間社会学研究科 地域教育支援専攻のカリキュラム変更	教育学・保育学	学則変更(専攻)
	人間社会学研究科 心理臨床専攻のカリキュラム変更	教育学・保育学	
平成28年4月	人間社会学研究科 地域教育支援専攻の学生募集停止	—	学生募集停止(専攻)
			廃止届出(専攻)
平成29年4月	人間社会学研究科 子ども教育専攻 設置	教育学・保育学	設置届出(専攻)
令和7年4月	人間社会学研究科 人間社会学専攻 設置	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	設置届出(専攻)

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会学研究科人間社会学専攻) (大学院)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
特別研究	特別研究Ⅰ(社会福祉コース)	1通		4				○		4	2					
	特別研究Ⅰ(心理臨床コース)	1通		4				○		4	3					
	特別研究Ⅰ(子ども教育コース)	1通		4				○		4	3				1	メディア
	特別研究Ⅱ(社会福祉コース)	2通		4				○		4	2					
	特別研究Ⅱ(心理臨床コース)	2通		4				○		4	3					
	特別研究Ⅱ(子ども教育コース)	2通		4				○		4	3				1	メディア
	小計(6科目)	—		24			0	6	0	24	16				2	
教養科目	各 コ ー ス 共 通	研究倫理	1通			1		○		5	2					オムニバス
		Postgraduate presentation skills development in English	1・2後			1		○		1						
		小計(2科目)	—		0	2	0	2	0	6	2	0	0	0	0	
社会福祉コース	社会福祉専門科目	フィールドワーク	1通		2				○	4	2					
		社会福祉研究法	1前		2			○		1						
		量的研究法	1・2前			1		○		1						
		質的研究法	1・2前			1		○		1						
		社会福祉研究A	1・2前		2				○						1	外部講師
		社会福祉研究B	1・2後		2				○						1	外部講師
		ソーシャルワーク研究A	1・2前		2				○		1					
		ソーシャルワーク研究B	1・2後		2				○		1					
		高齢者福祉研究A	1・2前		2				○	1						
		高齢者福祉研究B	1・2後		2				○	1						
		障害者福祉研究A	1・2前		2				○						1	外部講師
		障害者福祉研究B	1・2後		2				○		1					
		地域福祉研究A	1・2前		2				○	1						
		地域福祉研究B	1・2後		2				○	1						
		子ども家庭福祉研究A	1・2前		2				○		1					
		子ども家庭福祉研究B	1・2後		2				○		1					
		精神保健福祉研究A	1・2前		2				○	1						
		精神保健福祉研究B	1・2後		2				○	1						
		福祉制度比較研究	1・2前		2				○						1	外部講師
		社会保障制度研究A	1・2前		2				○		1					
		社会保障制度研究B	1・2後		2				○						1	外部講師
		地域問題研究A	1・2前		2				○	1						
		地域問題研究B	1・2後		2				○	1						
小計(23科目)			6	38	0	3	19	1	15	8	0	0	0	5		

心理臨床基礎科目	臨床心理学特論	1・2通		4			○			1	1							
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1・2前		2			○				2							
	臨床心理面接特論Ⅱ	1・2前		2			○			1								
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1・2前		2			○				1							
	臨床心理査定演習Ⅱ	1・2後		2				○		1								
	臨床心理基礎実習A	1前		1				○		3	2		1					
	臨床心理基礎実習B	1通		1					○	3	2		1					
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）	1～2通		10					○	3	2		1					
	臨床心理実習Ⅱ	2通		1						○	3	2						
	心理実践実習B	1～2通		2						○	3	2		1				
A 科 専 群 目 門 心理学	心理統計法特論	1・2後		2			○					1						
	心理学研究法特論	1・2前		2			○								1		外部講師	
B 科 専 群 目 門 心理学	発達心理学特論	1・2後		2			○				1							
	認知心理学特論	1・2前		2			○					1						
C 科 専 群 目 門 心理学	社会心理学特論	1・2前		2			○			1								
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2			○								1		外部講師・集中	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1・2前		2			○			1								
D 科 専 群 目 門 心理学	神経生理学特論	1・2前		2			○				1							
	老年心理学特論	1・2後		2			○				1							
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2			○			1								
E 科 専 群 目 門 心理学	投映法特論	1・2前		2			○								1		外部講師・集中	
	心理療法特論	2前		2			○			3	2						集中	
実 心 科 践 理 目 展 臨 開 床	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2後		2			○			1								
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2後		2			○								1		外部講師・集中	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1・2後		2			○								1		外部講師・集中	
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2後		2			○				1							
	小計(26科目)			10	49	0	20	1	5	25	20	2	4	0	5			

子ども教育コース	子ども教育専門科目	教育課題研究A	1前	2			○			1	1	1			1	オムニバス、メディア		
		教育課題研究B	1後	2			○			3	2	1				1	オムニバス、メディア	
		地域教育課題研究	2前	2			○			4	3	2			1	1	メディア	
		子ども教育実践実習Ⅰ	1後	1					○	4	3	2				1		
		子ども教育実践実習Ⅱ	2前	1					○	4	3	2				1		
		子ども教育研究法Ⅰ	1・2前		2			○	※		2						1	講義及び演習、メディア
		子ども教育研究法Ⅱ	1・2後		2			○	※		1						1	講義及び演習
		子ども教育制度研究	1・2前		2			○	※							1		講義及び演習、メディア
		子ども教育行政研究	1・2後		2			○	※							1		講義及び演習、メディア
		学校教育歴史研究	1・2前		2			○	※		1							講義及び演習、メディア
		学校教育理論研究	1・2後		2			○	※		1							講義及び演習、メディア
		子ども教育カリキュラム研究	1・2前		2			○	※				1					講義及び演習、メディア
		子ども教育実践方法研究	1・2後		2			○	※				1					講義及び演習、メディア
		子どもの心理研究	1・2前		2			○	※							1		外部講師、講義及び演習、メディア
		子どもの心理実践研究	1・2後		2			○	※							1		外部講師、講義及び演習、メディア
		子ども音楽教材研究	1・2前		2			○	※				1					講義及び演習、メディア
		子ども音楽表現研究	1・2後		2			○	※				1					講義及び演習、メディア
		子ども造形表現研究	1・2前		2			○	※							1		講義及び演習、メディア
		子ども造形教材研究	1・2後		2			○	※							1		講義及び演習
		身体発育発達研究	1・2前		2			○	※				1					講義及び演習、メディア
		子ども身体教育研究	1・2後		2			○	※				1					講義及び演習、メディア
		子どもソーシャルワーク研究	1・2前		2			○	※			1						講義及び演習、メディア
		子どもソーシャルワーク実践研究	1・2後		2			○	※			1						講義及び演習、メディア
		子育ての社会学研究	1・2後		2			○	※			1						講義及び演習、メディア
	小計(24科目)			8	38	0	20	21	2	24	18	12	0	0	6			
合計(81科目)		-	-	48	127	0				94	64	14	4	0	18			
学位又は称号	修士(社会福祉) 修士(心理臨床) 修士(子ども教育)	学位又は学科の分野		社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係、文学関係														
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
社会福祉コースは、特別研究、教養科目及び社会福祉専門科目から、必修科目14単位を含めて合計30単位以上を修得すること。 心理臨床コースは、特別研究、教養科目及び心理臨床専門科目・心理学専門科目A群～E群・心理臨床実践展開科目から、必修科目18単位を含めて合計30単位以上を修得すること。 子ども教育コースは特別研究、教養科目及び子ども教育専門科目から必修科目16単位を含めて合計30単位以上を修得すること。										1学年の学期区分			2学期					
										1学期の授業期間			15週					
										1時限の授業の標準時間			90分					

教育課程等の概要															
(人間社会学研究科社会福祉専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
社会福祉コア科目	特別研究Ⅰ	1通	/	4				○		4	2				
	特別研究Ⅱ	2通	/	4				○		4	2				
	フィールドワーク	1通	/		2				○	4	2				
	社会福祉研究法	1前	/	2				○		1					
	量的研究法	1・2前	/		1				○	1					
	質的研究法	1・2前	/		1				○	1					
小計(6科目)	—			10	4	0	3	2	1	15	6	0	0	0	0
社会福祉専門科目	社会福祉研究A	1・2前	/	2				○							1 外部講師
	社会福祉研究B	1・2後	/		2			○							1 外部講師
	ソーシャルワーク研究A	1・2前	/	2				○		1					
	ソーシャルワーク研究B	1・2後	/		2			○		1					
	高齢者福祉研究A	1・2前	/	2				○		1					
	高齢者福祉研究B	1・2後	/	2				○		1					
	障害者福祉研究A	1・2前	/	2				○						1 外部講師	
	障害者福祉研究B	1・2後	/	2				○		1					
	地域福祉研究A	1・2前	/	2				○		1					
	地域福祉研究B	1・2後	/	2				○		1					
	子ども家庭福祉研究A	1・2前	/	2				○		1					
	子ども家庭福祉研究B	1・2後	/	2				○		1					
	精神保健福祉研究A	1・2前	/	2				○		1					
	精神保健福祉研究B	1・2後	/	2				○		1					
	福祉制度比較研究	1・2前	/	2				○						1 外部講師	
	社会保障制度研究A	1・2前	/	2				○		1					
	社会保障制度研究B	1・2後	/	2				○						1 外部講師	
	地域問題研究A	1・2前	/	2				○		1					
	地域問題研究B	1・2後	/	2				○		1					
小計(19科目)	—	—	—	4	34	0	0	19	0	8	6	0	0	0	5
教養科目	研究倫理	1通	/		1			○		5	2				オムニバス
	Postgraduate presentation skills development in English	1・2後	/		1			○		1					
	小計(2科目)	—			0	2	0	2	0	6	2	0	0	0	
合計(27科目)				—	—	—	—	—	—	29	14	0	0	0	5
学位又は称号	修士(社会福祉)			学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
社会福祉コア科目、社会福祉専門科目及び教養科目から、必修科目14単位を含めて合計30単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業の標準時間				90分			

教育課程等の概要																	
(人間社会学研究科心理臨床専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)以外の教員	
コア心理臨床科目	特別研究Ⅰ	1通	/	4				○		4	3						
	特別研究Ⅱ	2通	/	4				○		4	3						
	小計(2科目)	—		8	0	0	0	2	0	8	6	0	0	0	0		
心理臨床基礎科目	臨床心理学特論	1・2通	/	4				○		1	1						
	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1・2前	/	2				○			2						
	臨床心理面接特論Ⅱ	1・2前	/	2				○		1							
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1・2前	/		2			○			1						
	臨床心理査定演習Ⅱ	1・2後	/		2			○		1							
	臨床心理基礎実習A	1前	/	1					○	3	2		1				
	臨床心理基礎実習B	1通	/	1					○	3	2		1				
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習A)	1~2通	/		10				○	3	2		1				
	臨床心理実習Ⅱ	2通	/		1				○	3	2						
	心理実践実習B	1~2通	/		2				○	3	2		1				
小計(10科目)	—		10	17	0	4	1	5	18	14	0	4	0	0			
心理学専門科目A群	心理統計法特論	1・2後	/	2				○				1					
	心理学研究法特論	1・2前	/	2				○						1	外部講師		
	小計(2科目)	—		0	4	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1		
心理学専門科目B群	発達心理学特論	1・2後	/	2				○			1						
	認知心理学特論	1・2前	/	2				○				1					
	小計(2科目)	—		0	4	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0		
心理学専門科目C群	社会心理学特論	1・2前	/	2				○		1							
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前	/	2				○							1	外部講師・集中	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1・2前	/	2				○		1							
小計(3科目)	—		0	6	0	3	0	0	2	0	0	0	0	1			
心理学専門科目D群	神経生理学特論	1・2前	/	2				○			1						
	老年心理学特論	1・2後	/	2				○			1						
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1・2前	/	2				○		1							
小計(3科目)	—		0	6	0	3	0	0	1	2	0	0	0	0			
心理学専門科目E群	投映法特論	1・2前	/	2				○							1	外部講師・集中	
	心理療法特論	2前	/	2				○		3	2					集中	
	小計(2科目)	—		0	4	0	2	0	0	3	2	0	0	0	1		
心理臨床実践科目	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2後	/	2				○		1							
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2後	/	2				○							1	外部講師・集中	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1・2後	/	2				○							1	外部講師・集中	
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2後	/	2				○			1						
小計(4科目)	—		0	8	0	3	0	0	1	1	0	0	0	2			
教養科目	研究倫理	1通	/	1				○		5	2					オムニバス	
	Postgraduate presentation skills development in English	1・2後	/	1				○		1							
	小計(2科目)	—		0	2	0	2	0	0	6	2	0	0	0			
合計(30科目)				—	—	18	51	0	21	3	5	39	28	2	4	0	5
学位又は称号	修士(心理臨床)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
心理臨床コア科目、心理臨床基礎科目、心理学専門科目A群～E群、心理臨床実践展開科目及び教養科目から、必修科目18単位を含めて合計30単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業の標準時間			90分							

教育課程等の概要																	
(人間社会学研究科子ども教育専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員	
子ども教育コア科目	教育課題研究A	1前	/	2			○			1	1	1			1	オムニバス、メディア	
	教育課題研究B	1後	/	2				○		3	2	1				オムニバス、メディア	
	地域教育課題研究	2前	/	2				○		4	3	2				メディア	
	子ども教育実践実習Ⅰ	1後	/	1					○	4	3	2			1		
	子ども教育実践実習Ⅱ	2前	/	1					○	4	3	2			1		
	特別研究Ⅰ	1通	/	4					○	4	3					メディア	
	特別研究Ⅱ	2通	/	4					○	4	3					メディア	
	小計(7科目)	—		16	0	0	1	4	2	24	18	8	0	0	3		
子ども教育専門科目	子ども教育研究法Ⅰ	1・2前	/	2			○	※		2						講義及び演習、メディア	
	子ども教育研究法Ⅱ	1・2後	/	2			○	※		1						講義及び演習	
	子ども教育制度研究	1・2前	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子ども教育行政研究	1・2後	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	学校教育歴史研究	1・2前	/	2			○	※		1						講義及び演習、メディア	
	学校教育理論研究	1・2後	/	2			○	※		1						講義及び演習、メディア	
	子ども教育カリキュラム研究	1・2前	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子ども教育実践方法研究	1・2後	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子どもの心理研究	1・2前	/	2			○	※							1	講義及び演習、メディア	
	子どもの心理実践研究	1・2後	/	2			○	※							1	講義及び演習、メディア	
	子ども音楽教材研究	1・2前	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子ども音楽表現研究	1・2後	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子ども造形表現研究	1・2前	/	2			○	※					1			講義及び演習、メディア	
	子ども造形教材研究	1・2後	/	2			○	※					1			講義及び演習	
	身体発育発達研究	1・2前	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子ども身体教育研究	1・2後	/	2			○	※				1				講義及び演習、メディア	
	子どもソーシャルワーク研究	1・2前	/	2			○	※		1						講義及び演習、メディア	
	子どもソーシャルワーク実践研究	1・2後	/	2			○	※		1						講義及び演習、メディア	
	子育ての社会学研究	1・2後	/	2			○	※		1						講義及び演習、メディア	
小計(19科目)			0	38	0	19	19	0	8	6	4	0	0	2			
教養科目	研究倫理	1通	/		1		○			5	2					オムニバス	
	Postgraduate presentation skills development in English	1・2後	/		1		○			1							
小計(2科目)	—		0	2	0	2	0	0	6	2	0	0	0				
合計(28科目)				—	—	16	40	0	22	23	2	38	26	12	0	0	5
学位又は称号	修士(子ども教育)			学位又は学科の分野					教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
子ども教育コア科目、子ども教育専門科目及び教養科目から必修科目16単位を含めて合計30単位以上をを修得すること。									1学年の学期区分			2学期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業の標準時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会学研究科人間社会学専攻) (大学院)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅰ (社会福祉コース)		<p>【概要】 社会福祉学に関する修士論文の作成の観点から、必要な知識や研究のための方法等を修得する。各受講生は自らの問題意識を明確にするために、研究文献および資料等を読み、その領域における基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、受講者同士の討論を通して、研究テーマを探究する。そして、修士論文の作成を念頭に置きながら、研究計画を作成する。研究計画は年度末の中間発表会で発表し、指摘を受けた点について、さらに改善した上で最終的に作成し提出する。そして、必要に応じて研究倫理審査を受けるなど、研究計画に基づき、調査研究などを行うための具体的な準備を行う。</p> <p>(住友雄資) 専門：精神保健福祉。精神障害者の地域生活支援、ソーシャルワーク及びケアマネジメントを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (本郷秀和) 専門：高齢者福祉。高齢者の権利擁護、高齢者の地域支援に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (村山浩一郎) 専門：地域福祉。地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策等についてを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (堤圭史郎) 専門：福祉社会学。都市貧困問題に関する社会学的研究、地方都市におけるホームレス支援に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (奥村賢一) 専門：子ども家庭福祉。学校ソーシャルワークの実践、児童虐待防止に向けた支援方法に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (河野高志) 専門：ソーシャルワーク。ソーシャルワークにおける理論と実践の循環過程、多分野でのケアマネジメント実践の比較に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p>	
	特別研究Ⅰ (心理臨床コース)		<p>【概要】 本授業の目標は、1. 修士論文として取り上げる課題に関する心理学の専門知識を身につけている、2. 心理学に関する研究を行うために必要な科学的手法を身につけている、3. 修士論文として取り上げる課題に対して心理学的手法を用いて検討し、自らの考えを適切に表現できる、4. 心理的問題に対して主体性をもって取り組むことができる、というものである。心理学に関する修士論文の作成のために必要な知識や研究のための技能を修得する。各受講生は自らの問題意識を明確にするために、研究文献、資料等を読み、その領域における基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、受講者同士の討論を通して、研究テーマを探究し、その成果を中間発表会で発表する。</p> <p>(上野行良) 専門：社会心理学。研究テーマ：人間関係の心理、ユーモア・笑いに関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (小嶋秀幹) 専門：社会精神医学。精神保健学。精神障害の地域啓発教育、自殺予防対策に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (岩橋宗哉) 専門：臨床心理学。精神分析的心理療法。病院における心理臨床、精神力動的な心理療法に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (吉岡和子) 専門：臨床心理学。心理査定学。対人関係における自己表現の在り方、アサーショントレーニングプログラムの実践に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (麦島剛) 専門：生理心理学。ストレスや情動反応の生理心理学的研究、加齢や発達に伴う行動変化の生理心理学的研究を研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (池志保) 専門：臨床心理学。発達臨床心理学。臨床における創造性の研究・理論生成の試みに関する研究、発達と創造性に関する研究を研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (小山憲一郎) 専門：臨床心理学。認知行動療法。ストレス関連疾患における認知行動療法、不安の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p>	
	特別研究Ⅰ (子ども教育コース)		<p>【概要】 「特別研究Ⅰ」では、課題の選定、調査の手法や手続きなどについて、多角的に検討する。具体的には、関係する先行研究についての調査と研究、ならびに方法論の検討、研究計画の策定について、履修者のテーマに沿いながら研究の実践・指導を行い、「特別研究Ⅱ」の論文指導へと繋げる。</p> <p>(池田孝博) 専門：身体教育学。幼児の体力・運動能力、身体活動とその関連要因、日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (福田恭介) 専門：実験心理学。教育心理学。瞬目に関すること、瞳孔に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (杉野寿子) 専門：社会福祉学。保育ソーシャルワークに関すること、開発途上地域の福祉課題に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (佐野麻由子) 専門：社会学。ジェンダー。途上社会における発展、開発についての社会学的研究、男児選好の促進要因についてを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (藤澤健一) 専門：教育学。近代沖縄教育制度史に関すること、日本植民地教育政策史に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (鷲野彩子) 専門：芸術実践論。芸術一般。歴史的楽器及びピアノ演奏に関すること、19世紀ヨーロッパ音楽の演奏法に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (中原雄一) 専門：応用健康科学。身体教育学。大学生における運動・スポーツの重要性に関すること、精神的健康に対する運動の効果に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (伊勢慎) 専門：教育学。保育学。保育所、幼稚園における保育内容に関すること、保育者養成における学生指導に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p>	
	特別研究Ⅱ (社会福祉コース)		<p>【概要】 社会福祉学に関する修士論文の作成の観点から、必要な知識や研究のための方法等を修得する。「特別研究Ⅱ」では、「特別研究Ⅰ」で作成した研究計画に基づいて具体的に研究を進め、調査等の研究方法を実施する。そして、調査等の実施によって得られた資料・データについて分析を行い、分析結果を踏まえて、自ら設定した研究テーマに対する考察を論理的・総合的に深め、修士論文を執筆する。なお、論文作成にあたっては、途中経過を授業等で報告し、教員や受講生とディスカッションを行って考察を深めるとともに、教員の個別指導を受け、必要に応じて論文を修正する。そして、期日までに論文執筆要領などを踏まえて修士論文を完成させ、提出する。</p> <p>(住友雄資) 専門：精神保健福祉。精神障害者の地域生活支援、ソーシャルワーク及びケアマネジメントを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (本郷秀和) 専門：高齢者福祉。高齢者の権利擁護、高齢者の地域支援に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (村山浩一郎) 専門：地域福祉。地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策等についてを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (堤圭史郎) 専門：福祉社会学。都市貧困問題に関する社会学的研究、地方都市におけるホームレス支援に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (奥村賢一) 専門：子ども家庭福祉。学校ソーシャルワークの実践、児童虐待防止に向けた支援方法に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。 (河野高志) 専門：ソーシャルワーク。ソーシャルワークにおける理論と実践の循環過程、多分野でのケアマネジメント実践の比較に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p>	

		特別研究Ⅱ（心理臨床コース）		<p>【概要】</p> <p>本授業の目標は、1. 先行研究を踏まえ修士論文の研究目的を明確化するために必要な心理学の専門知識を身につけている、2. 研究目的に照らして科学的にデータを収集し、記述・分析する手法を身につけている、3. 研究目的を明確にし、それに照らして、分析結果に基づいて考察し、自分の考えを論理的に適切に表現できる、4. 自らの研究テーマについて他の受講者や研究者とのディスカッションを行うなど、主体的に取り組むことができる、というものである。心理学に関する修士論文の作成のために必要な知識や研究のための技能を修得する。特別研究Ⅰに引き続き、各受講者は、研究文献、資料等を読み、ディスカッションを通して、研究領域における専門的知識の理解を深め、研究テーマを探求し、研究目的、方法を明確化し、それに基づいて調査や実験を行い、結果について考察し、修士論文を完成させる。</p> <p>（上野行良）専門：社会心理学。研究テーマ：人間関係の心理、ユーモア・笑いに関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（小嶋秀幹）専門：社会精神医学、精神保健学。精神障害の地域啓発教育、自殺予防対策に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（岩橋宗哉）専門：臨床心理学、精神分析的な心理療法。病院における心理臨床、精神力動的な心理療法に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（吉岡和子）専門：臨床心理学、心理査定学。対人関係における自己表現の在り方、アサーショントレーニング・プログラムの実践に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（麦島剛）専門：生理心理学。ストレスや情動反応の生理心理学的研究、加齢や発達に伴う行動変化の生理心理学的研究を研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（池志保）専門：臨床心理学、発達臨床心理学。臨床における創造性に関する研究・理論生成の試みに関する研究、発達と創造性に関する研究を研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（小山憲一郎）専門：臨床心理学、認知行動療法。ストレス関連疾患における認知行動療法、不安の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p>	
		特別研究Ⅱ（子ども教育コース）		<p>【概要】</p> <p>「特別研究Ⅰ」に引き続き、子ども教育にかかわる修士論文の作成を総合的に支援する。「特別研究Ⅰ」で作成した中間計画書や中間発表における指摘事項等をふまえ、履修者のテーマに沿いながら研究の実践・指導及び論文指導を行う。</p> <p>（池田孝博）専門：身体教育学。幼児の体力・運動能力、身体活動とその関連要因、日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（福田恭介）専門：実験心理学、教育心理学。瞬目に関すること、瞳孔に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（杉野寿子）専門：社会福祉学。保育ソーシャルワークに関すること、開発途上地域の福祉課題に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（佐野麻由子）専門：社会学、ジェンダー。途上社会における発展、開発についての社会学的研究、男児選好の促進要因についてを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（藤澤健一）専門：教育学。近代沖縄教育制度史に関すること、日本植民地教育政策史に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（鷲野彩子）専門：芸術実践論、芸術一般。歴史的楽器及びピアノ演奏に関すること、19世紀ヨーロッパ音楽の演奏法に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（中原雄一）専門：応用健康科学、身体教育学。大学生における運動・スポーツの重要性に関すること、精神的健康に対する運動の効果に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p> <p>（伊勢慎）専門：教育学、保育学。保育所、幼稚園における保育内容に関すること、保育者養成における学生指導に関することを研究テーマとし、これらに関する研究指導を行う。</p>	
教養科目	各コース共通	研究倫理		<p>科学と社会との関係がより緊密になる中、研究者には自らの研究活動を律し、社会的責任を果たしていくための研究倫理の確立が求められている。本授業では、研究者にとっての研究倫理の必要性や重要性を理解し、研究倫理の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>また、人間社会学研究科の各研究分野の研究倫理に関するガイドライン、本学の研究倫理規程及び人間社会学研究科における研究倫理の相互評価の仕組み（研究倫理審査）等を理解することで、研究倫理を実践する具体的な方法を学び、受講者が主体的に研究倫理に取り組む基礎をつくる。</p> <p>（オムニバス方式 全7回）</p> <p>（福田恭介／1回）授業全体のガイダンスを行うとともに、テキストに基づき研究倫理とは何かを説明する。</p> <p>（池田孝博／1回）テキストに基づき、研究計画を立て、研究を進める過程での研究倫理について説明する。</p> <p>（杉野寿子／1回）テキストに基づき、研究成果の発表、研究費の適切な使用、研究の質の向上に関する研究倫理について説明する。</p> <p>（村山浩一郎／1回）テキストに基づき、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針・ガイドライン」の要点を説明する。</p> <p>（池志保／1回）本学の研究倫理規程と研究倫理審査の仕組みを説明する。</p> <p>（堤主史郎／1回）人間社会学研究科「研究倫理審査申請書」の具体的な記入方法を、事例を通して解説する。事例を参考に、受講生自身の研究計画に関する「研究倫理審査申請書」を模範的に作成し、提出する。</p> <p>（中原雄一／1回）受講生が作成した「研究倫理審査申請書」について、個別指導を行う。</p>	オムニバス方式
		Postgraduate presentation skills development in English		<p>（英文）</p> <p>This intensive English immersion course will develop the skills necessary for postgraduate students to independently publish and present their research. The course will therefore offer practical advice and guidance on how to structure a research paper, write an abstract, and make poster presentations and longer presentations with PowerPoint. All instruction and printed material will be in English, though the practical advice and guidance will be transferable to Japanese and other languages.</p> <p>（和訳）</p> <p>この講義は、大学院生が自分の研究を単独で作成すること、また、発表を行うのに必要な技術の向上を目的としています。この講義では、英語で研究論文を作成する方法、要約の記述方法、パワーポイントを使用した短いプレゼンテーションや長いプレゼンテーションの作成などに関して実践的なアドバイスと指導を行います。そのため、すべての資料は英語で書かれていますが、実践的なアドバイスと指導は日本語やその他の言語でも行います。</p>	
専門科目	社会福祉専攻	社会福祉専攻	フィールドワーク	<p>フィールドワークは社会福祉領域の実習であり、履修した学生が問題意識を明確にして福祉関連現場での活動に取り組む。修士論文につながる体験学習の場でもあるため、特別研究の担当教員が履修生と協議し、履修生の興味・関心を尊重しながら実施先・内容等を決定する。</p> <p>実習先が決まったら、実習先で求められる知識や方法等について事前学習を行い、実習課題を明確にした上で実習計画書を作成する。実施にあたっては、定期的な内容報告を求め、教員は必要に応じて巡回指導、スーパーヴィジョンを行う。実習終了後は、ふりかえりを行い、実習報告書を作成・提出する。</p>	
専門科目	社会福祉専攻	社会福祉専攻	社会福祉研究法	<p>社会福祉学の原著論文を執筆することを念頭に、それに必要不可欠なアカデミック・スキル（論文構造、文献検索・収集・講読法、研究デザイン、量的・研究調査法、研究計画書作成法、研究倫理、査読、グループディスカッション法、プレゼンテーション法、引用・参照法を含む執筆ルール等）について、研究法に関する文献・資料や福祉系論文などを素材に、講義及び演習等により学習を深める。これらを通して、社会福祉研究法について理解を深め、修士論文執筆を目指す。なお、指導教員のもとでおこなう「特別研究Ⅰ・Ⅱ」において、さらに内容を深化させるものとする。</p>	

専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	量的研究方法	<p>本授業では、社会福祉を素材とする量的研究方法（量的調査法）の基礎について以下の流れで理解する。 （※基本的には多変量解析は扱わない）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義：社会調査の基礎、質問紙作成技法 (2) 各種報告書または（量的）調査論文の解説とデータ解釈練習（客観と主観の切り分けて表現する） (3) 調査目的（または調査仮説）を立て、簡単な質問紙を作成してみる。（自由記述1を含む10問以内を想定） (4) 作成した調査目的（調査仮説）と調査項目との整合性に関する各自の説明、母集団リスト（N）とRND開教を用いた調査対象の抽出練習 (6) 統計ソフトを使用したデータ入力練習（大学院のSPSSまたは秀吉D-PLUSを使用予定） (7) 統計ソフトを用いた基本統計量、クロス集計結果の出力と説明。 (8) ある1つの質問（回答形式は名義尺度）において、選択肢別にみた自由記述結果との関係整理と考察。 (9) 上記結果報告と質疑応答、テキストマイニングの例 	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	質的研究法	<p>研究デザインのうちリサーチ法の一つ、質的研究法（質的調査法）を取り上げ、そのスキル（リサーチエスジョン・サンプリング・観察・個別インタビュー・フォーカスインタビュー等のデータ収集法、カテゴリ分析・コーディング・メンバーチェック・スーパービジョン等のデータ分析法、各種質的調査法）について、質的研究法に関する文献・資料や福祉系論文などを素材に、講義及び演習等により学習を深める。これらを通して、質的研究法について理解を深め、修士論文執筆を目指す。なお、各指導教員のもとでおこなう「特別研究Ⅰ・Ⅱ」において、さらに内容を深化させるものとする。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	社会福祉研究A	<p>社会福祉の原論であり、歴史である。貧困問題とは政治問題である。貧困問題とは特定の貧困者としてカテゴリー化された問題ではない。自由と民主主義、自由と平等の関係をめぐる公共的議論の場の問題である。中心の問題は周辺において凝縮して現れる。したがって、日本の近代化過程において周辺化されることになった筑豊という地帯から、日本社会とは何か、日本の近代化過程とは何であったか、日本型福祉国家の形成史とその構造を解明する。</p> <p>社会福祉の原論という、社会福祉の固有性を問うことが行われてきた。しかし、本講義では、福祉、労働（雇用）、教育の問題を連想的に理解することを旨とする。そうした視点ではじめて、企業主義的な日本型福祉国家の構造が見えてくる。周辺から中心を問うという視座と問題意識は知の構造を問うことでもある。教育と福祉を横断するソーシャルベダゴジーとその知の在り方にも目を向けていきたい。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	社会福祉研究B	<p>児童ケアの国際比較研究である。第1日目はイギリスを中心に扱う。海外児童移民の歴史はイギリスの児童ケアの歴史の暗部である。バーナードズはこの問題、つまりアンデンティティ保障にいかに向き合ってきたかを取り上げる。また、スコットランドにおけるソーシャルベダゴジー移入の実践例を取り上げる。第2日目は、ドイツの児童ケアを中心に扱う。ロンドン大学の国際比較研究を確認し、ドイツの児童・青少年援助法とその下での実践例を検討していく。第3日目は、アメリカと日本の児童ケアを中心に扱う。現在の社会的養護改革について、国際比較の中で検討していく。また、デンマークをはじめヨーロッパ各国のソーシャルベダゴジーの多様性に目を向けていきたい。フィリピンの非政府組織によるストリートチルドレンへの包括的アプローチも注目したい。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	ソーシャルワーク研究A	<p>ソーシャルワークの概念や理論の発展過程と特徴を理解するため、主要な実践モデルやアプローチ（システム理論、生態学的視座、エコシステム、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、家族療法、行動療法、課題中心ソーシャルワーク、エコロジカル・アプローチ、ジェネラリスト・アプローチ、ケアマネジメント、ソーシャルサポート・ネットワーク、エンパワメント・アプローチ、構成主義・ナラティブ）について受講生自身の学びの内容を授業内で共有しつつ、教員が解説を加える。また、社会福祉の諸問題や支援事例等において、ソーシャルワークの実践モデルやアプローチを活用する方法や意味などをディスカッションすることで、理論と実践の関係について考察する機会を設ける。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	ソーシャルワーク研究B	<p>ソーシャルワークの理論や先行研究等の知見などが、受講生自身の研究テーマにおいてどのように活用できるかを学ぶ。そのため、まず受講生は自身の研究テーマに関連するソーシャルワークの先行研究を調べ、その内容について理解したことや得られた知見、研究の到達点について発表する。次に、ソーシャルワークの理論や先行研究の知見、受講生自身の経験知、当事者等の語りなど多角的な情報やエビデンスを用いて、受講生自身の研究テーマの意義や目的をソーシャルワークの観点から考察する。これらの取り組みを受講生の学修ニーズに沿って進められるよう、教員は先行研究の紹介や論文の読み方の指導、研究テーマに関するソーシャルワーク理論の解説等を行う。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	高齢者福祉研究A	<p>本授業では、高齢者福祉について、高齢者虐待と権利擁護を中心にしつつ、主に各種文献等を用いて以下のような内容を学習する。レポート報告を行い、質疑応答等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢期の特性（身体的、心理的、社会環境的側面） (2) 高齢者を巡る課題と諸外国の高齢化の動向（ヤングケア、ダブルケア、老老介護、抗老化医療、介護人材、ターミナルケアと死後の考え方、個食、交通、社会参加と生きがい、高齢者親、災害や犯罪に関する課題等） (3) 介護保険制度と介護サービス (4) 高齢者虐待の発見・予防・対応（アメリカ、カナダ、フィンランド、ドイツ、韓国の紹介含む） (5) 福岡県の老人福祉計画または高齢者保健福祉計画等の検討 (6) 認知症と介護家族支援 (7) その他：状況に応じてデンマーク、フィンランド、スウェーデン、ドイツ、イタリア、アメリカなどの国の中から高齢者福祉に関する自治体や施設の取り組みを紹介する。 	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	高齢者福祉研究B	<p>本授業では、主に(1)地域包括ケアシステムと民間非営利法人、(2)高齢者ソーシャルワーク（アセスメントの視点としてEU・アメリカで共通的に使用されているInter RAYを紹介予定）、(3)退院支援ソーシャルワーク（高齢者中心）、(4)苦情とその対応について（国保連または社会福祉協議会の事例を用いて）、(5)高齢者施設・事業所（設置主体の理解を含む）の種類・概要とマネジメントの基礎と活動の実践について学習する。また、高齢者福祉に関する基本文献の収集と精読を行うが、状況に応じて高齢者福祉の見学・体験等を通じて実践的に学びを深めたい。基本文献としては(1)学会誌等に掲載されている高齢者福祉に関する研究論文、(2)各種の調査・研究報告書、(3)高齢者関係の答申や計画書を集集・整理し、受講生同士で輪読・課題検討を行う。加えて、高齢者福祉に関するレポート報告を行い、質疑応答等を行う。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	障害者福祉研究A	<p>本授業では、第一に、障がい者観の歴史と今日における障がいの定義について解説した上で、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい等の福祉に関する戦後の経緯を概観する。第二に、各障がいの特性を概観し、各障がい特性に応じた支援の方法及び支援課題について解説をしていく。第三に、特別支援教育と就労支援の歴史的背景、定義、内容、課題について概観する。そして、第四に、障害者総合支援法や障害者差別解消法など相談援助活動において必要となる法制度等について理解を深めていく。</p>	

専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	障害者福祉研究B		障害者とその家族が直面する多様な課題に対する総合的な支援策を検討する。障害者における多様な実践事例を基に、サービス等利用計画と国際生活機能分類（ICF）アセスメントシートを多角的な視点から作成し、生活の質（QOL）向上のための戦略を厳密に研究する。このプロセスを通じて、計画の作成と評価に必要なスキルを磨き、障害者とその家族に対して、より効果的な支援を理解する。また、政策面にも焦点を当てる。具体的には、国や地方自治体が展開する障害福祉政策を傍聴し、それらの政策の実際の状況、施策内容、それに伴う課題と方向性について深く理解することを目的とする。このようにして、障害者の個々のニーズに対応するだけでなく、より広い視野で社会全体における障害福祉について考察する。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	地域福祉研究A		地域福祉は、ノーマライゼーションやコミュニティケアの影響を受けながら、1970年代から理論化された新しい考え方であり、児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域を基盤とした新しい福祉の形態を意味する。この授業では、1970年代以降の地域福祉論の展開を辿りながら、地域福祉の定義や現代的な意義・役割などについて学んでいく。また、住民の地域福祉活動、社会福祉協議会によるコミュニティワーク、地域福祉計画や包括的な支援体制等の地方自治体の地域福祉政策など、地域福祉の推進方法についても理解を深める。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	地域福祉研究B		地域福祉研究Bでは、地域福祉研究Aでの学習を踏まえて、住民の地域福祉実践、専門職による地域福祉援助、社会福祉協議会や地方自治体の地域福祉事業・地域福祉計画・施策などについて、具体的事例をとりあげ、地域福祉を推進する上での課題と今後の方向性について検討を行う。まず、教員が様々な地域福祉実践の具体的事例について紹介し、その分析方法や事例のまとめ方について解説する。その上で、受講生は各自、自分が取り上げる具体的事例を選定し、事例に関する情報を収集し、論文整理をした上で、授業で報告をする。その報告について討論を行いながら、授業を進めていく。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	子ども家庭福祉研究A		子ども家庭福祉研究Aでは、児童福祉法（2016）ならびにこども基本法（2023）が重視する児童の権利に関する条約に則り、子どもを権利の主体者として捉え、現代社会における重層化した子ども家庭福祉を取り巻く諸課題について権利擁護の観点から議論を行う。講義では、主要なテーマである①虐待、②貧困、③愛着障害に関連する論文、統計資料、報告書などに基づき、ソーシャルワークの視点から状況分析を行い、具体的な支援のあり方について多面的に考察していく。人と環境の相互作用により顕在化するこれらの問題の背景にある本質的課題について検討を行い、子ども家庭福祉の観点から求められるソーシャルワークに対する専門的な見識を高めることを目指す。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	子ども家庭福祉研究B		子ども家庭福祉研究Bでは、子ども家庭福祉研究Aでの議論を踏まえたうえで、子どもや家族の生活に影響を及ぼす①障害・疾病、②教育、③子育て支援をテーマに検討を行う。①では、国連障害者権利委員会（2022）からの勧告（総括所見）とわが国の障害福祉施策のあり方。②では、不登校をはじめとする種々の教育課題に対する学校現場でのソーシャルワークの必要性。③では、新しい社会的養育ビジョン（2017）以降の市町村を中心とした子ども家庭福祉施策の動向について、各テーマに即した論文、統計資料、報告書などを基に討論を進め、子ども家庭福祉の観点から求められるソーシャルワークに対する専門的な見識を高めることを目指す。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	精神保健福祉研究A		現代までに至る精神保健福祉に関する施策展開を踏まえ、精神科病院を主とする精神障害者治療・援助に関する思想的・歴史の変遷、精神障害者の地域移行に必要な医学的・社会的リハビリテーション等に関する精神障害リハビリテーション技法や個別支援・家族支援・チームアプローチ・ケアマネジメント等のソーシャルワークの具体的な支援法について、講義及び演習等により学習を深める。これらを通して、精神障害者の地域移行支援について理解を深め、精神保健福祉実践に活用できる知識の習得を目指す。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	精神保健福祉研究B		「精神保健福祉研究A」の内容を踏まえ、精神障害者の地域移行後に必要な医学的・社会的・職業的リハビリテーション等に関する精神障害リハビリテーション技法や地域生活を維持・展開するためのスーパービジョン・コミュニティワーク・アドミニストレーション・ソーシャルアドミニストレーション等のソーシャルワークの具体的な支援法について、講義及び演習等により学習を深める。これらを通して、精神障害者の地域生活支援について理解を深め、精神保健福祉実践に活用できる知識の習得を目指す。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	福祉制度比較研究		第2次世界大戦以降、我が国の社会福祉制度・社会保障制度はイギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、スウェーデン、デンマークなどの国々から大きな影響を受けながら形成されてきた。しかし、1980年代後半以降、社会福祉サービスの提供組織をみると民間組織の役割が大きくなり、しかもそれらの組織は多様化してきている。つまり、21世紀型の福祉サービスの供給体制を構築しなければならないようになってきているのである。そこで本授業では2つの目標を掲げていく。第一の目標は我が国の社会福祉制度・社会保障制度を他の国々との国際比較により国際的な視野から位置づけ、その特徴を把握することである。第二の目標は21世紀における少子高齢化の進行によって、急速に変容しているサービス提供組織の現況と今後の課題を、他の福祉先進国の例を踏まえながら整理することである。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	社会保障制度研究A		本講義は、社会保障に関する文献の講読とそれに基づく討議を通じて、社会保障の理念と原理を理解し、社会保障の全体像と各論に関わる諸論点、とりわけ社会保障の概念や体系、基礎理論、各制度の概要について検討や分析を行い、考察を深めることを目的とする。さらに、これらを通じて、社会保障制度の抱える現代的諸課題について、論じることができることをねらいとする。具体的には、指定のテキストをベースとしながら、受講生の問題意識や関心のある、社会保障領域の論文等を取りあげる。	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	社会保障制度研究B		本講義は、社会保障制度の意義を再考し、社会保障制度の総合的・個別的な政策の分析・検討を行うことを目的とする。そのために、複雑化した社会保障制度に通底する概念や理念・価値、哲学思想等をふまえて、各制度の政策的手段・手法及びその選択、政策形成及びその実現過程といった、社会保障政策の展開を詳細に検討分析した上で、今後の立法政策の課題を考察する。日程が調整可能であれば、テーマに関係する実施機関の見学を予定している。	

専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	地域問題研究 A		<p>貧困・生活不安定層が特定地域に集積し、そうした地域で生活・成長することがさらなる排除状態をもたらすという二面において、社会的排除は地域社会で顕在化する。社会的排除にある人々を対象に研究する際には、人々のくらしがどのように営まれているのかを理解するとともに、人々がくらす地域の成り立ちと仕組みについて理解する、社会的な研究方法も必要となる。</p> <p>本科目では、受講生が社会的排除層、とりわけ貧困・生活不安定層、被差別マイノリティの人々に関わる課題を調査研究することを念頭に、主に社会学領域の文献・論文輪読を行う。まずは受講生との事前相談により文献・論文を指定し、輪読し議論する。次に、各々の研究テーマと専門性に基づき、関連論文を学会誌・文献等から選び、報告する。そして、修士論文の中間報告を受け付ける。報告においては各自の問題意識と課題について明らかにした上で、報告論文を選択した意図や研究上のねらいを明らかにする必要がある。したがって、演習に参加するに先立ち、修士課程における自らの研究計画に真摯に向き合うことが肝心である。</p>	
専門科目	社会福祉コース	社会福祉専門科目	地域問題研究 B		<p>本演習では、受講生が社会的排除層、とりわけ貧困・生活不安定層、被差別マイノリティの人々に関わる課題を調査研究することを念頭に、主に社会学領域の文献・論文輪読を行う。まずは受講生との事前相談により文献・論文を指定し、輪読し議論する。次に、各々の研究テーマと専門性に基づき、関連論文を学会誌・文献等から選び、報告する。そして、修士論文の中間報告を受け付ける。報告においては各自の問題意識と課題について明らかにした上で、報告論文を選択した意図や研究上のねらいを明らかにする必要がある。したがって、演習に参加するに先立ち、修士課程における自らの研究計画に真摯に向き合うことが肝心である。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理学特論		<p>前期では、心理療法を実践していくための基礎的な知識を習得する。心理療法が実施される多岐にわたる領域を知り、領域に応じた目的や求められる技能の違いを理解する。事例検討論文を講読し力動的・認知的精神療法、認知行動療法、来談者中心療法の異同について理解する。</p> <p>後期では、支持的・精神療法は、精神分析的精神療法や認知行動療法を統合的に組み込んだ包括的な介入法である。また、精神分析的精神療法や認知行動療法を習得する前に、習得すべき基礎として、アメリカ精神医学会では位置づけられている。この講義では、アメリカ精神医学会出版部によって刊行された支持的精神療法の教科書を用いて、支持的・精神療法の具体的な進め方等の理解を深める。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）		<p>前半では力動的な心理療法、後半では認知行動療法と来談者中心療法についてそれぞれ学ぶ。力動的な心理療法は、精神分析の治療構造論及び契約、転移と逆転移、退行・行動化・劇化、解釈・理解・委当化、喪の作業などについて学ぶ。認知行動療法に関しては、Beckが認知療法を成立させる過程において、認知理論の背景に精神分析から着想した点があること、セラピストの態度としてRogersの3原則を重視し発展していった歴史について学び、それぞれの心理療法の共通点と独自性の理解を深める。3つの心理療法の基礎的な理論、技法を理解したのち、実際の事例研究を講読したり、映像学習をしたりする。さらにディスカッションを通して理解を深める。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理面接特論Ⅱ		<p>力動的な心理療法や認知行動療法、来談者中心療法のブレイスラビーについて、実際の面接の進め方について具体的に示した文献を取り上げ、それらを通して、各心理療法に共通する臨床心理面接における基本的な事項や各療法の相違点について検討する。また、年齢による技法の修正についても考える。授業に参加者から出された疑問点等をディスカッションする方法で行う。このような作業によって、臨床心理面接における基本的なかわり方とは何かを実践的に理解することを目標としている。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）		<p>クライアントやその家族、他の専門家から相談を受け、心理療法や助言、指導、コンサルテーション等を導入するためには、心理アセスメントを行う必要がある。本授業では、公認心理師や臨床心理士として、将来働く上で必要となる心理アセスメントに関する理論や具体的な方法および実践を学んでいく。本授業を通して、種々の心理的種々の心理的アセスメントに関する理論とその実践方法、解釈について理解することができることを目指す。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理査定演習Ⅱ		<p>本授業の目標は、1. 心理検査を施行する上でのマナーを理解する、2. 心理検査の解釈方法について理解する、3. 心理検査の施行法を身につける、4. 基本的な枠組みに沿って、検査所見を作成することができる、というものである。まず、ロールシャッハ法の被検者体験を行う。次にWAISやロールシャッハ法、パウムなどの施行法を学ぶ。WAISとパウムの所見、ロールシャッハ法のスコアリング、形式分析、継起分析の演習を行う。最後に、検査者体験を行ったWAISとロールシャッハ法の各所見及び所見のまとめを作成する。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理基礎実習 A		<p>本授業の目標は、1. 心理的諸問題に主体性を持って取り組むことができる、2. 多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働するための基礎的な力を身につけている、というものである。心理面接を実施していくために必要な基礎的な技能を修得する。実習内容は、1. 学内附属実習施設である、心理教育相談室における電話受付などによる受付業務、2. 心理面接における基本的な話の聴き方及びかわり方についてロールプレイ等を行う。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理基礎実習 B		<p>本授業の目標は、1. 報告をもとに、主体性を持って事例の理解を深めることができる、2. 事例報告についてディスカッションし、多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につける、というものである。受講生は、ケースカンファレンスに参加し、事例報告を聞く。小グループで事例報告についてディスカッションし、その内容を発表する。その後、さまざまなオリエンテーションからなされる教員の事例の理解や助言を聞く。事例の理解を深め、心理面接の基礎的なかわり方（技能や知識を含む）について理解し、活用できるように授業を構成している。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習 A）		<p>次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、心理に関する支援を要する者等に対して支援を実施しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受ける。</p> <p>（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等</p> <p>（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ （エ）多職種連携及び地域連携 （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p> <p>実習の総時間数は 455 時間以上（うちケース担当 270 時間以上）とする。</p>	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	臨床心理実習Ⅱ		<p>本授業の目標は、1. カウンセリングにおいて見立てや方針、またその経過について適切に表現することができる、2. 専門的な立場から、クライアントの心理的問題に対して主体的に取り組むことができる、3. クライアントやその家族、他の援助者のものの見方について理解し、協働することができる、というものである。心理教育相談室における事例について、グループスーパービジョンを行う。参加者はケースカンファレンスに参加し、事例についてグループ討議を行う。事例報告者は、面接についての報告書を作成し、それに基づいて発表し、助言を受ける。</p>	

専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	心理実践実習B		本授業の目標は、1. 支援計画を適切に立て、それについてわかりやすく説明できる、2. 各領域における心理支援について適切に述べられる、3. 事例検討において様々な見方を理解し、主体性をもって取り組むことができる、4. 各領域の支援者の意見を理解し、協働することができることである。実習指導者の指導を受け、支援計画を立てる。そして、臨床心理実習I(心理実践実習A)における実習経過を報告し、指導を受ける。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	心理統計法特論		本講義では心理学研究をする上で重要、かつ基本的な統計的知識、および統計手法を身に付けることを目指す。具体的には講義の前半には重回帰分析や因子分析、構造方程式モデリングといった近年の心理学研究において高頻度で用いられる基礎的な解析手法について説明を行う。その際、これらの解析に関するよくある誤解や注意点について重点を置いて説明を行うことで、修士論文において適切な解析が実施できるようになることを目指す。講義の後半では再現性問題などを取り上げ、議論を行うことで、近年の心理学研究に残る問題や今後の課題について理解を深めることを目指す。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	心理学研究法特論		本授業では、心理学における実証的な実験(調査)研究の方法についての専門的な知識と心理的諸問題に関する課題に取り組むための実践能力および科学的な手法を身につけることを目標としている。心理学における実証的な実験(調査)研究の方法について精通することを目的とする。これから心理の専門職として業務を行って行くには欠かせない科目である。各受講者のもつ研究テーマについて、構想、実験計画、実験実施、データ分析と解析、結果の記述、考察、レポート執筆、学会発表、学術誌発行という流れをたどりながら、心理学研究において陥りやすい問題を考えていく。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	発達心理学特論		人の生涯を通しての発達を深く学んでいく授業である。例えば、人の生涯発達を想像力とことばの発達プロセスとメカニズム、未来への可能性の観点から深く学んでいく。また、困難を生き抜く力を育む発達臨床にも役立つ知識や考え方を身につけていく。授業では、発達心理学の関連するテキストを読み、発表し、ディスカッションを通して考えながら進めていく。本授業を通して、受講生が人の生涯発達について深く理解し、知識を獲得することを旨とする。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	認知心理学特論		本講義では認知心理学領域の新しい知見に触れるとともに、そうした知見が得られるまでの手続きやプロセスを理解できるようにすることを旨とする。講義の前半では記憶や記憶といった認知の代表的な知見を紹介する。講義の後半では認知心理学実験を行う際に利用する実験プログラムの作成の仕方や近年普及してきたオンライン実験・調査をする上での注意点などについて説明を行う。こうした講義と並行して受講生による論文発表を実施する。認知心理学・実験心理学についての論文を発表し、その内容についてディスカッションを重ねることで、なぜそうした研究が必要なのか、どのような手続きで実験の知見が得られているのか、研究にどのような限界点が存在するのかなどについて理解を深めていくことを旨とする。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	社会心理学特論		本授業は臨床場面で人間を理解するための社会心理学的知識を有することを目的としている。社会心理学のうち、社会的自己、社会的認知、対人心理の研究に関するテキストを使用する。すなわち他者や自己をどう意識し、どう捉え、どう評価していることが個人にどのような心理状態と行動を引き起こすのか、人と関わること、人との関係の中で生きるときに起きる諸側面を概観する。これは臨床場面、臨床心理学研究において、人間関係や対人意識を理解するために必要な基本的な知識である。授業はテキストを読み、解説し、討論し、各自内容をまとめ、質問することを通して、独自の解釈をせず理解した上で独自の思考から問いをもつことを繰り返して行う。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開		本授業は、犯罪加害・被害に関する心理を専門的知識と臨床的実感で理解し、心理社会的課題や支援方法を検討できるようにすることを目標としている。司法・犯罪分野について幅広く見立てる力を養い、矯正・介入方法について見識を深めるために、①犯罪者の性格特性、認知バイアス、共感性・倫理性②非行と家族関係③矯正システム④被害者支援⑤司法面接⑥虚偽供述分析などについて、講義や資料を基にしたディスカッション、映像資料やロールプレイをもとにした実習などを行う。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践		本授業は、家族関係・集団・地域社会における心理支援に関わる専門的知識をもとに心理的課題を検討できるようにすることを目標としている。具体的には、①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用である。この3点について、家族療法のテキストを基に、講義及びディスカッション、ロールプレイ等を行う。適宜、受講生からの質問を受ける。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	神経生理学特論		本講では、神経系の機能について、神経生理学を核として神経精神薬理学・神経化学・生理心理学等、広く神経科学(neuroscience)を論じる。この中には、心理学的事象の源としての脳機能も当然含まれる。また、発達障害・精神疾患等について、脳の機能的不全という側面から検討する。当分野は日進月歩で研究が進んでいる分野であり、国内外で新しい知見が得られた場合は適宜解説する。例えば最近では、認知症治療薬開発やBMI(脳が生み出す信号で機器を操作する技術)など。これらを通して、こころの根源である脳のメカニズムを体系的に論ずる。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	老年心理学特論		本講では、老化学説や心身における加齢の諸相など、老年学における知見を踏まえつつ、高齢期に見られる病的老化や器質的損傷と心理学的諸事象との関係について議論する。とくに神経心理学的症状に関する研究と臨床的課題について議論する。脳出血や脳梗塞などの脳血管障害、認知症など、脳の何らかの器質的障害によってしばしば知覚・認知・記憶・学習・言語・知能・人格・情動・社会性などが変化化する。これらの神経科学的メカニズム及び心理学的メカニズムを解説する。また神経心理学的検査によるアセスメントについても解説する。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開		本授業では、保健医療分野における公認心理師の業務を理解すること、精神疾患をもつクライアントに対する適切な支援法を理解することを目標とする。第1回～第9回では、国際疾病分類(ICD)やアメリカ精神医学会の診断基準(DSM)を精読し、主要な精神疾患の特徴、生物・心理・社会的支援法について学習する。第10回～第15回では、テキストや関連資料をもとに保健医療分野における公認心理師の役割や自殺の危機介入方法について学習する。授業は演習形式で実施する。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	投映法特論		心理臨床においてクライアントの心を主として言葉を通して理解していくことになるが、その言葉の延長にあるさまざまな非言語的な表現をどう理解し、受け止めていくかがクライアント理解と援助に豊かな色合いを付加することになる。その非言語的アプローチによる表現理解のあり方を心理アセスメントの一部としての投映法を通して理解し、その心理療法的発展としての箱庭療法や描画法についての理解も深めることを目的とする。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	心理療法特論		本授業では、心理療法、心理援助について様々な理論の知識を深め、説明できるようにすることを目標としている。5名の教員が共同担当し、心理療法の様々なアプローチ・モデル(アサーション、心理療法と創造、精神力的な心理療法、臨床心理的地域援助、マインドフルネス)を取り上げ、国内外の文献や事例に基づいて講義を行い、知識を深めてもらう。また、受講者とのディスカッションや文献や視聴覚資料等を基に演習を通して理解を促す。適宜、受講生からの質問を受ける。	

専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	産業・労働分野に関する理論と支援の展開		本授業では、労働者によりやすい精神的な問題と支援方法についての知識、理解を深め、職場でのメンタルヘルス不調者に心理職として適切な関わりができるようになることを目標とする。第1回～12回はテキストに沿って、産業保健心理学の概要を学習し、各回のテーマについて講師とディスカッションする。第13回～15回は、職場におけるストレスマネジメント教育を受講者が模擬実施し、その実施方法を体験学習する。授業は演習形式で実施する。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	福祉分野に関する理論と支援の展開		本授業では福祉ニーズを持つ対象者に対する心理臨床実践に必要な知識を習得する。福祉分野における心理職の業務は対象者のニーズを把握し、問題の背景や機序に関してアセスメントし、それに基づき支援を展開していくことにある。社会の発展とともに福祉領域における課題は多様化、複雑化している。本授業では、福祉領域の重要なテーマである子ども虐待、発達障害児者支援、高齢者支援を取り上げ、その社会心理的課題と心理職の役割について学ぶ。特に2023年には子ども家庭庁の創設や子ども基本法の制定、子ども大綱の策定が予定されており、子どもと家庭を取り巻く環境は今後も大きく変化していくものと想定される。本授業では行政データ等も活用しながら今日的な課題を理解し、福祉分野の専門職として必要な知識を身につけることを目標とする。	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	教育分野に関する理論と支援の展開		本授業では、学校における臨床心理学的アプローチについて学ぶ。具体的には①児童生徒や学校を取り巻く課題、②学校における臨床心理学的支援、③スクールカウンセラーの実際、の3点について学ぶ。(なお、集中講義なので、必ず授業開始日までにテキスト『スクールカウンセラーの第一歩』を読んで、各章での疑問点や考えたことを各自まとめておくこと。授業中にそれぞれの入から疑問点や考えたことを発表してもらい、それをもとに討議を行う。)	
専門科目	心理臨床コース	心理臨床専門科目	心の健康教育に関する理論と実践		こころとからだは密接に影響しあっており、日常生活におけるストレスは、その双方に影響を与える。こころの問題や身体症状に取り組む際には、その密接な関連を視野に入れ理解しておく必要がある。そこで、この講義では具体的に以下のことを学習し、理解を深める。 1. 心身医学的、また、心理臨床的な臨床実践の中で、こころとからだの関係はどのように理解され、どのように身体症状に取り組みされてきたかを学習する。 2. 心身医学領域では認知行動療法が心理療法の主流となりつつあり、疾患ごとの技法パッケージが作られている。しかし技法に目を奪われると認知行動療法はうまくいかないことが多い。そのため、伝統的な心理療法との共通部分である技法以前のクライアント-セラピスト関係の重要性を理解した上で、専門的な技法の知識と共にそれらの導入について学習する。上記のための理論として臨床行動分析についても詳しく学ぶ。	
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	教育課題研究A		幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に小学校との連携や交流が課題として取り上げられていることから、小学校の準備教育としての就学前教育という観点を踏まえつつ、以下に示す領域及び分野における今日的な教育課題について研究し、必要な専門知識を修得する。特に子ども教育の基礎的領域(教育学・保育学)に関わる内容を取り扱う。 (オムニバス方式/全15回) (董秋艶/4回) 科目概要の説明。幼稚園、保育園、認定こども園の仕組みや役割について説明し、今後の課題を考える。 (福田恭介/3回) 幼児期、児童期における子どもの心理的課題について理解し、支援のあり方を考える。 (藤澤健一/4回) 小学校における教育問題の基礎や歴史、今日的課題、教育改革の現状について理解する。 (伊勢慎/4回) 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園保育要領」の変遷や、保幼小連携について理解する。	オムニバス方式 メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	教育課題研究B		幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に小学校との連携や交流が課題として取り上げられていることから、小学校の準備教育としての就学前教育という観点を踏まえつつ、以下に示す領域及び分野における今日的な教育課題について研究し、必要な専門知識を修得する。なお、「教育課題研究B」では、特に子ども教育の教科的領域(体育・図工・音楽)および関連領域(福祉学・社会学)に関わる内容を取り扱う。 (オムニバス方式/全15回) (鷲野彰子/3回) 科目概要の説明。彰子学校教育及び就学前教育における今日的課題と、講義で展開される個別の領域の関連をとらえる。 (池田孝博/2回) 子どもの健康教育に関わる今日的な教育課題について学習する。 (杉野寿子/3回) 社会的養護の概要、歴史的背景、現状について学び、今後の社会的養護のあり方について検討する。 (中原雄一/2回) 子どもの身体教育に関わる今日的な教育課題について学習する。 (佐野麻由/2回) 地域の教育課題を把握し、学術的アプローチについて議論する。 (櫻井晋伍/3回) 子どもたちの造形活動について理解し、保幼小接続期にどのような造形教育が必要となるか議論する。	オムニバス方式 メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	地域教育課題研究		「子ども教育実践実習Ⅰ・Ⅱ」と連動させながら、地域の教育現場及び子育て支援の現場と連携・協力し、地域の保育・教育に関する諸課題を抽出し、その解決に向けた具体的方策を検討するとともに、その具体的展開の検証及び改善に取り組む。その中では、履修者自らが高い関心を有する領域及び分野を選択して、専門性を有する教員の指導のもとに学習を進める。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育実践実習Ⅰ		子ども教育に関連する現場を選定し、当該現場において継続的な参与観察を行う。それを通じて、①現場の組織、②保育・教育計画の立案過程、③保育・教育活動の運営過程、④保育・教育計画の再編の過程を実体験し、そこに生起する固有の課題を抽出する。その中では、履修者自らが高い関心を有するテーマを選択して、専門性を有する教員の指導のもとに学習を進める。	
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育実践実習Ⅱ		「子ども教育実践実習Ⅰ」を通じて、抽出された保育・教育の現場が抱える様々な課題に適切に対応できる確かな実践的指導力を身に付ける。学内における理論(「地域教育課題演習」)の学修と組み合わせ、理論知と実践知を往還する探求的な省察力を育成し、新たな学びのデザインや複雑な現場での諸課題に対応する探求的、かつ高度な実践力を身につける。	
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育研究法Ⅰ		修士論文の執筆の上で必要なアカデミック・スキルのうち、質的研究法と量的研究法の基礎的な内容を学修する。質的研究法の中では、数値化できない現象を把握し解釈する方法について学修する。また、量的研究法では、統計処理に関する基礎的な知識や初歩的な統計検定の方法を学修し、データに応じた適切な分析方法を選択するとともに、出力された結果を適切に解釈して、図表等に表現する知識や技能を身につける。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育研究法Ⅱ		「子ども教育研究法Ⅰ」で学修した量的研究法の内容をさらに発展させ、より高度なレベルの統計学的手法を学修する。修士論文を執筆するための質問紙調査や各種の測定によって得られた定量的データについて、そのデータに応じた分析方法として、因子分析、重回帰分析、クラスター分析など、多変量解析の手法を用いて分析を行うための知識・技能(統計処理ソフトの操作方法を含む)を身につける。	メディア授業

専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育制度研究	子どもの保育に関する社会的、制度的または運営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、これらの関連する課題を理解する。また、日本の保育制度（関連法令）改革の動向を踏まえながら、保育実践がどのような制度・社会的なシステムの中で営まれているのか、それらのシステムを編成する原理は何か等について習得する。保育施設の歴史的及び社会的役割を理解し、教職としての社会的責任を自覚できることを目指す。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育行政研究	近年の子ども教育改革の動向を念頭に置きつつ、子ども教育行政に関する基礎的・基本的な知識を習得し、教育行政の理念とその構造について理解する。また、子どもに関する各種教育法制度の習得や法を越えた教育を動かすみえない力をも制度として捉えらるとともに、これら知識を用いて教育行政の特徴や課題を考え、その解決策（グッドデザイン）を提示できる力を身につける。教職としての社会的責任を自覚できることを目指す。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	学校教育歴史研究	初等教育機関を中心とした学校の歴史の変遷を修得する。近現代日本の教育政策・制度の歴史的展開、各地域での実態、ならびに教育実践史や教員史の展開を素材とし、教育の管理運営から教授学習過程にわたる、基礎的な事項を中心とする。履修者の課題がいかなる歴史的背景をもち、今日に至ったのかを理解する。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	学校教育理論研究	主として1945年以後の日本における教育学の理論を修得する。教育の内容と方法、教育制度・政策、管理運営、教育的価値と思想、発達・発育論、教育権論や公教育論、教育労働論などにかかわる基礎的な事項を中心としつつ、履修者の課題がいかなる理論的背景、学説史と関連するのかを理解する。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育カリキュラム研究	保育（計画と評価）・幼児教育（課程・カリキュラム）の歴史の変遷、編成原理を把握し、その成果と課題を理解する。また、保育（計画と評価）・教育（課程・カリキュラム）の開発プロセスを理解するとともに、評価について学び、具体的な保育の計画、教育カリキュラムを検討し、作成、評価を行う。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども教育実践方法研究	保育・幼児教育における実践体系、保育・幼児教育の内容と方法の歴史の変遷、基本概念を把握し、その成果と課題を理解する。また、諸外国における保育・幼児教育の実践を体系的に学び、小学校以降の学校教育との比較を通して、保育・幼児教育の独自性と連続性について実践方法を把握し、その成果と課題を理解する。さらに、具体的な実践方法を検討し、評価を行う。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子どもの心理研究	子どもは、人間としての基本的な能力を持って生まれてくるが、現実世界で使いこなせるようになるには多くの時間がかかる。言葉を話せない子どもの持つ能力を、どのような方法で調べられるのかを話し合っていく。子どもの中には家庭や園、学校において、うまく適応できない場合もある。そのような子どもたちに対してどのような支援ができるのかを話し合っていく。こういったことを通して、乳幼児から児童期の子どもの発達を育むことについて話し合っていく。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子どもの心理実践研究	子どもが、家庭や園、学校においてうまく適応できない場合、支援を行うためにどのような視点から子どもの行動を観察・記録を行えばよいかを話し合っていく。また、関連する研究論文を紹介したり、自らの研究計画を紹介したりしていくことで、子どもの行動や心理を明らかにする方法論について実践的に話し合っていく。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども音楽教材研究	子どもの音楽表現に関連する教材（特に子どもの歌など）の歴史の変遷を学修し、現在よく使用される教材の課題や背景について検討する。伊澤修二が中心となって取り組んだ明治維新における唱歌の導入、大正時代の「子ども」のための童謡、そしてその後の音楽教育について学修する。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども音楽表現研究	リトミックや歌唱、合奏など、さまざまな子どもの音楽表現方法やそのあり方・指導方法について学修する。リトミックについては、創始者であるエミール・ジャック＝ダルクローズによる理念を踏まえてその実践形態について考える。合奏については様々な合奏譜を比較しながら、その実践方法について検討する。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども造形表現研究	子どもの造形表現に関して、製作活動と鑑賞教育に関する学修を行う。その中でも、特に保育・幼児教育と小学校の接続期における造形教育に関して、先行研究を基に学修を進める。また、素材・技法の体験の順序性や連続性に関して、履修者の実務経験等の省察を行う。これらの知識習得や省察を踏まえ、子どもの造形表現における有効な指導方法について検討する。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども造形教材研究	保育・教育現場では様々な教材が用いられており、既製品を使用するケースもあれば、保育者自身が製作した教材も見られる。これらについて、履修者の実務経験等を踏まえて課題と思われる点を省察する。また、新たに必要性を見出すことが出来る教材を構想する。そして、その省察や構想を踏まえた教材製作を行い、保育・教育現場における教材発表を行うことで、実践的に教材の課題発見と改善に取り組む。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	身体発育発達研究	主に、乳幼児期から児童期における発育発達について、骨格筋や骨といった運動器や神経系、生理機能、運動機能などについて、身体的な発育発達について幅広く学び、基本的な知識の修得を旨とするとともに、それぞれの時期の発育発達の特徴について体系的に理解する。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子ども身体教育研究	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の保育内容「健康」における保育活動の内容について、身体的側面から検討を行うとともに、昨今問題となっている身体活動量という観点から生涯にわたる健康を見据えて、乳幼児期から成人期に至るまで幅広く理解を深める。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子どもソーシャルワーク研究	子ども家庭福祉の理念やソーシャルワークについての理解を深める。子どもの権利、子ども家庭分野の法制度やサービス体系、ソーシャルワークの機能と役割などを学ぶとともに、現代社会の子ども家庭における諸課題の背景を考察し、国内外の子ども家庭分野の動向なども参照しながら、子ども分野におけるソーシャルワークについて学ぶ。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子どもソーシャルワーク実践研究	子どもソーシャルワークに関する研究論文や実践報告、記事などの資料をもとに、子どもの育ち、子ども家庭や地域を取り巻く環境、社会資源の活用など、子どもに関する諸課題について子どもソーシャルワークの視点で分析、考察する。具体的な実践事例を取りあげ、子ども分野のソーシャルワークの意義を深めていく。さらに、受講生自身の研究テーマとソーシャルワークの関連についても検討していく。	メディア授業
専門科目	子ども教育コース	子ども教育専門科目	子育ての社会学研究	受講生自身の研究関心に関連した「子育て」、「教育」、「家族」分野の社会学概念や理論、分析枠組みを学び、今日の社会的課題の諸要因を論理的、実証的に把握し、解決策を導く力の修得を目指す。具体的な事例を取り上げ、問いの設定、先行研究や各種資料・データの収集や整理の方法、仮説の設定など、社会学の研究方法を実践的に学びながら、修士論文作成に必要なスキルの修得も目指す。	メディア授業